

会 議 録

会議の名称	第20回西東京市男女平等参画推進委員会会議録
開催日時	平成15年10月29日 午後18時20分から22時00分まで
開催場所	西東京市民会館
出席者	(委員)堀口委員長、神島委員、赤石委員、岩西委員、栗原委員、高橋委員、角田委員、中村委員、西山委員、淵脇委員 (欠席者)加藤委員、石井委員、今城委員、田口委員、名古屋委員 (事務局)佐藤主幹、菅沼主事、インテージ1名
議 題	(1) 男女平等参画推進計画素案総論について (2) 男女平等参画推進計画素案各論パート1について (3) 男女平等参画推進計画素案各論パート2について (4) その他
会議資料	・男女平等参画推進計画素案総論編
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発 言 内 容
委員長	前回の総論部分の確認をしたい。
委員	4ページの2段落目「これらに対応...」につなげるには、その前に「新しい種々の課題」などと複数形にしないとおかしいのでは。
委員長	その前に「少子高齢化...」、「家族形態の多様化」等があるので、そこまで厳密でなくてもよいのではないか。
委員	厳密には委員の指摘するとおりだが。
委員長	では、「近年新しい種々の課題」とすることに。では、5ページについて。
委員	「ジェンダー」の注釈を、もう少しわかりやすくしたほうがよい。
委員長	「女らしさ」、「男らしさ」という表現を前面に出さず、「オス・メスといった生物学的な性差ではなく、社会的・文化的な性のことをさす」としたほうがよい。後半部分「また、...」は残してよい。
委員	後半部分はなくてもよいのではないか。
委員	市販の本などを参考に、「ジェンダー」を小学生や中学生にも理解できるように説明したほうがよい。「いわゆる『女らしさ』...」というよりも、「生物学的な性差」という意味の表現のほうが好ましいと思う。
委員	注釈なのに、他の国や時代を知らないとう理解できないような文になっている。他国での話を後で入れてもよいが、まず日本ではどういう認識をされているかをわかりやすく説明したほうがよい。
委員長	では、「ジェンダー」という言葉そのものを簡潔に説明する文章に、事務局で修正してもらおうということに。
委員	では6ページについて。ここに関してはよろしいでしょうか。(一同了承)
委員	8ページについてはどうですか。
委員	2行目「それぞれ市民参加で...」というのは、何の計画作りをしたのか不明なので、「市民参加で男女平等計画作りを...」などとしたほうがよい。
委員	保谷市と田無市では計画の具体的名称が異なっていたが、共通に「女性行動計画」になっていたので、その表現を入れたらよいと思う。また、「前身の旧2市(田無市、保谷市)...」、「市民参加で女性行動計画を策定し、男女平等...」、「男女平等情報誌『エガール』...」、「男女平等参画推進フォーラム...」と正式な名称に。「市民と行政が...進めています。」、「2002年に女性相談を開設し...」などとしたほうがよい。
委員	女性相談とするのであれば、以下に記されている「市民への支援」ではなく、「女性市民への支援」となるのではないか。調査の略称は「意識調査」

委員	でなく「市民調査」にしては。 ここでは女性相談の開設のみを言っているのに、「さまざまな...市民への支援」とは何なのかわからない。「女性相談の開設」で文章を切ってもよいのでは。
委員長	「子どもの引きこもり」など、女性相談の内容にも広がりがあるので、「市民への支援」であってもよいのでは。
委員	その場合、女性相談を市民への支援の一例として行っているというのであればよい。
委員長	「2002年に『女性相談』を開設し...」と、「市民への支援を行って...」の順序を入れ替えることにより、今の提案に沿えるのではないか。
委員	これまで女性相談の実施を目指して取り組んできた経緯があるので、前面に出さなくてはおかしくなる。
委員	折衷案として「また、02年女性相談を開設し、さまざまな悩みへの支援を行っています。」ではどうか。
委員	「女性相談や何々を実施し、」と膨らませるとよいのでは。具体的には浮かばないが。
委員長	そうすると、「女性相談」が薄まってしまうのでは。
委員	先ほどの折衷案がよい。
委員長	では折衷案でいくということで。 2段落目の「意識調査」を「市民調査」にしてはどうかという意見に対してはどうか。
事務局	総合計画で行った意識調査が「市民調査」と呼ばれているので、まぎらわしいため、「男女平等市民調査」としたほうがよいのでは。
委員長	では、「男女平等市民調査」と略すことに。 次、「=男女の地位の平等感=」と、9ページの「=就労状況=」についてはどうか。まず前者について。
委員	意識調査からのデータ分析のコメント記載中、「とどまっております」「留まっております」が混在しているので統一を。
委員	各論にも意識調査の内容が載っているので、整理をしないと意識調査が多すぎるのではないか。こういったスタイルにするのかどうかの確認をとりたい。
委員長	10ページの「=女性の参画状況=」に関してはどうか。
委員	総論にふさわしいデータを載せるのはよいが、9ページの記述は調査回答者のプロフィールであって西東京市全体の就労状況を必ずしも反映しているとはいえないので、総論として載せるのはどうかと思う。「～育児と女性の就労～」については、西東京市のデータと国のM字形就労を比較して同様の特徴があると述べるのはよい。西東京市を総体的に代表すると客観的に言えるものに。
委員	国勢調査のデータならよい。1ページ目だけでもよいのでは。総論にこれだけのデータを載せるのであれば、各論での掲載を削ってほしい。
委員	西東京市の特徴として、都心に通勤可能なベッドタウンということなどを示す製作意図はわかる。おもしろい記述となっているので、簡潔にまとめてもよいが残したほうがよい。
委員長	まとめると、9ページの「=就労状況=」の数字が客観的でないため記載すべきでないという意見と、逆に記載してもよいがもっと簡潔にまとめるべきという意見が出ている。
委員	調査の結果も統計的な代表性があるのではないか。
委員	「～育児と女性の就労～」だけは残して、上2つは削除してよいのでは。

委員	「～女性の場合～」の、「西東京市の20歳以上...6割の人は働いています」は残しておきたい。続きは削除してもよい。
委員	意識調査の結果であるということが問題となっているのでは。
委員	20歳以上女性の回答者の6割が働いているということであって、西東京市の状況を正確に反映しているものではない。
委員	9、10ページの文章はよくまとまっているので、このままでよいのではないか。9ページのグラフは下の2つだけにしてもよい。10ページは文章のみでもよいと思う。
	西東京市の実態を踏まえているということを示すためにも、調査結果は残したほうがよい。
委員	総論部分で概略にふれておき、各論でさらに詳しく記述する形式でよい。専門家の方が、これで問題ないとおっしゃるのならよいが。ただ、9ページの「20歳以上の女性のうち、約6割...」というのは、西東京市全体としての統計結果にはならない。
委員	回答者の結果であり、高齢者すべてを含んでいるわけではない。
委員	正確を期してほしい。
委員	「平成14年度の意識調査によれば、」と加筆したらよいのではないか。
委員長	では、9ページは文言を少し補って文章は概ねそのまま、グラフの前半3つを削除。10ページは文章はそのままグラフを削除するというのでいいか。
委員	10ページが文章のみでグラフがないと、客観的にそうといえるのか疑問が出てくるのでは。グラフを削除するのなら、西東京市は女性の参画状況が少し進んでいるので、より伸ばして行こうという方向性の文章にして膨らませてほしい。
委員長	変則的な進行になるが、ここで事務局からの報告を。
事務局	女性センター検討委員会からの報告がまとまったので、委員長にご報告する。
	<報告>
委員長	では、総論部分に関して続きを。11ページの「2計画の基本的立場」に関しては。
委員	4行目「過去の差別の結果」は現在の差別がないようにとれるので、「差別の結果」でよいのでは。
委員	3行目「社会として必要なこと考えます」を「必要なことと考えます」に。
委員	12ページの「2計画の性格・位置づけ」の(7)「その実現」は何の実現かわからない。「計画の実現」としたほうがよい。
委員	「もの」を「課題」にし、「その実現に向けて」はカットしてよい。
委員	さらに「この計画のうち、」を加えたほうがよい。
委員長	では、「(7)この計画のうち、市の行政権限を越える課題については、国・都や関係機関、事業主等に対して、積極的に働きかけていきます。」に変更ということでもいいか。
	では、総論について検討を終了し、各論について検討に入る。
委員	前回、検討が終わったところだが、2ページについて。下から4行目「...分業意識を身につけていきます」とあるが、性別役割分業意識は自然に身につくのではなく、植え付けられていくものなので、「身につけてしまいます」といった表現にすべきでは。
委員長	では、14ページに関して。
委員	修正案では、「"職場"で実践する」は「"働く場"で実践する」に変更した。パートなどの実態について加筆した。また、後半の「加えて、...」「また、

	...」の部分を修正した。
委員	修正案では、「女性も男性も...」のような目標的な表現を入れた。その後、「西東京市では、育児の...」を入れた。
委員長	99年の旧労働省調査のパート賃金についての値（65.8%）は実感と異なる。実態は50%以下ともっと低いはず。
委員	一般労働者とパート労働者を合わせた男女の賃金格差の値も出したほうがよいのではないか。
委員	パートの状況について加筆する意図をもう少し説明してほしい。
委員	女性が再就職をする場合、ほとんどパートになっているのでその点について、踏み込む必要があると思って書いた。
委員	唐突にパート労働に関する記述が入っているような印象があるので、「近年、就業形態...傾向にあります。」と、西東京市の状況とのつながりが必要。
委員	「一旦仕事を離れ、子育てが一段落してから再就職」という実態があるのは、女性が家庭責任と両立しながら継続的に働き続けられる状況にないためであり、パートなどのより低い労働条件で働かざるを得ないから。この問題をまず先に記述する必要がある。
委員	実際の市民の意識は、中断再就職を理想としているのでは。
委員	ここの文章は、問題提起ではなく、市の取り組みを示すものになっている。
委員	仕事を継続したいという志向の人は増えているが、結婚して出産するという選択をした人は、続けられないという実態があり、やはり中断再就職する人が多い。パート労働の問題は、不安定で有期雇用、景気の調節弁となってしまうというのがある。
委員	ここでは細かい数字は入れないほうがよいのでは。労働条件がよくないということにとどめておいたほうがよい。
委員	これまでの議論をまとめると、「パート労働者の賃金は...65.8%と低く、」の具体的な数値を削除すれば、あとは特に問題なしということではいいか。
委員長	「職場」を「働く場」に変更した意図はなにか。
委員	「職場」とすると狭い範囲をさしている印象があるので、もう少し広い意味で「働く場」とした。深い意味はない。
委員	「働く場」とすると、「家庭で専業主婦として働いている」というところまで含んでしまうようで、他と重複してしまうのではないか。
委員	では、「職場」でよい。
委員長	14ページの文章は委員からの修正案に差し替えるということでもいいか。
委員	「この背景には固定的...核家族化・保育体制整備の問題があります」は削除したほうがよいのではないか。
委員	文章の流れが悪いので、削除していいと思う。
委員	保育体制整備の問題については、どこかで触れる必要があるのでは。
委員長	両立支援と保育体制整備について14ページに記載したほうがよい。
委員	保育施策については、別の柱で触れていることなので、入れるのであれば7ページに両立支援としての必要性について加筆したほうがよい。
委員長	7ページと14ページの両方に記載するということで。
委員	17ページで「また、パートタイム労働や...定着を図ります」とあるが、パートの定着を図るのはよくないのでは？
	15ページで「起業への支援」とあるが、「女性の経済的自立への支援」といった意味にまで広げたほうがいいのかもかもしれない。
委員	東京都や「女性と仕事の未来館」などの事業をみると、起業というのは、ひとつの柱としてあってよいのではないか。

委員	16 ページ「職場における制度・慣行の見直し」の「施策の内容」で、「…市内事業所における…働きかけます」とあるが、どこに働きかけるのかがよくわからない。「市内事業所に対して」とした方がよい。
委員長	一般論ではなく、そのような制度や慣行の見直しを、各事業所内で取り組むという意味合いとなるように、文章を明確にしたほうが良い。
委員	制度・慣行とは具体的にはどういうことなのか。例えばセクハラについては、他の箇所にも記述があるが、ここにも書いたほうが具体的になるのでは。
委員	15 ページ「職場での男女不平等の実態 - 女性の昇進・昇格は男性に比べて遅れている」とあるが、これが意識調査だとすれば、「遅れていると感じている人が多い」などとしたほうがよい。
委員	「 管理的立場への女性の参画促進」とあるが、市が民間企業に対して、「女性の参画促進」とまで言い切ってしまうとよいのか。「啓発」程度に留めておいたほうがよい。
事務局	施策については、「啓発」とせず、「促進」にしておきたい。
委員長	では、17,18 ページについて。
委員	18 ページの「仕事と家庭両立推進企業の奨励」で、「奨励」という言葉は意味が広いので、その中に「優先的な事業委託」なども含まれとすれば、それら具体的な内容を入れたほうがよい。
委員	産業振興課と意見交換をするまでは、残しておいてほしい。
委員	17 ページの「新たな…定着を図ります」は、「新たな働き方を選ぶ人々の利益や権利を守ります」という趣旨だと思う。
委員	「適性化を確保し」というのは、「正規労働者との待遇・処遇の均等化」のことをいわんとしてるのではないか。
委員	そうなると、責任の程度差や時間外労働への対応への評価が関わってくるので難しい。「均等」までは踏み込みすぎでは。「公正さを確保」くらいがよいのでは。
委員	18 ページに市職員の育児休業取得の目標値を入れるという件についてはどう扱うか。西東京市の独自性を出せるのでは。
委員長	では、ここに入れておくということで。
委員	パート 2 の検討に入る。1 ページには西東京市という言葉を入れた表現に変えたほうがよいという意見が出ているが。
委員	「ライフスタイル」という言葉が限定されているので、「働き方」や「暮らし方」といった表現のほうがよい。
委員	西東京市に沿った内容にするという方向性でよいと思う。
委員	「現在、…遅れている」という表現は避けたい。「非常に低い」といった客観的な表現に変えたほうがよい。
委員	地域社会への参画が少ないのは、女性ではなくむしろ男性だと思う。男性の参画も推進するというのが望ましい。
事務局	前半の女性の政策方針決定の場への参画と、後半の地域社会への男女の参画の件は、切り分けて考えてほしい。
委員長	2 行目「日本の政策・方針決定…」では、「地域」という言葉が抜けているので、それを入れたほうがわかりやすい。
委員	2 ページについてはどうか。
委員	「真の」は削除したほうがよい。
委員	「人材」という言葉に違和感がある。辞書では、「人材」が「才能のある役に立つ人物」と定義されていたが、人材と言ってしまうと、結局、学識経験者や社会的地位の高い人で構成されてしまう危険性がある。「一般市民」

<p>委員長 委員</p>	<p>を参画させるのが望ましいのではないか。「一般市民」では、だめなのか。4 ページについて。 3 行目の「特に、平日の日中勤めている…」だが、平日の夜間や休日に勤務している市民は積極的には促進されないのか。 あと、1 行目の「女性・男性の参加を拡大する…」を、何への参加がわからないため、「それらの活動への参加」などとしたほうがよい。 「平日の日中勤めている…」というのは、おそらく講座などが平日の昼間に開催されることが多いといった背景があって書かれているのだと思う。ここは「さまざまな勤務形態の方々に対応し」といったような表現に変えたほうがよい。</p>
<p>委員</p>	<p>「地域・社会活動」ではなく「地域活動」でいいのではないかと思うが。社会活動とは何なのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>「地域」のみでは、地域のことだけに限定されて理解される懸念があるため、NPO のような活動も含め幅を持たせるために「社会」を追加したと記憶している。</p>
<p>委員長 事務局 委員</p>	<p>では 5 ページに進める。「西東京女性カレッジ」とは何なのか。 実際には、リーダー養成講座のようなものと理解してもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>「利用しやすい施設の整備」では、トイレの設置ばかり書かれているようだが。もう少し広範囲の整備について記載したほうがよい。</p>
<p>委員長 事務局</p>	<p>学校の保護者参観へは母親が参加することが圧倒的に多いのに、学童クラブへは父親の参加が意外に多い。子育てに関する父親の意識が高いようだ。男性に活動への参加を促すという意味で、学童クラブを記載したほうがいいかもしれない。</p>
<p>委員長</p>	<p>「取り組みの領域」の柱立てまでは確認していただいたということでもいいか。 本日の議論では、各論編パート 2 の 7 ページ以降が残ってしまっているが、続きは 11 月中にもう一度、非公式の委員会を開催し、各論の検討委員会と合わせて 2 回行うことになる。 次回は必ず最後まで進行させたいので、事前にご意見のある方は寄せていただきたい。</p>